東京高速道路（ＫＫ線）の既存施設のあり方検討会ヒアリング資料（港区）

１　新橋エリアの現況

新橋エリアの中心である新橋駅は、ＪＲ東海道線に横須賀線、山手線、京浜東北線、都営浅草線、メトロ銀座線、ゆりかもめの７路線が乗り入れ、一日の乗降客数が約９６万人となり、港区内では品川駅に次いで２番目の乗降客数となっています。

路線名	乗降客数
ＪＲ線	542,056 人
都営浅草線	98,317 人
メトロ銀座線	252,793 人
ゆりかもめ	64,852 人
合計	958,018 人

※2017 年度の一日平均乗降客数
　国土数値情報　駅別乗降客数データより

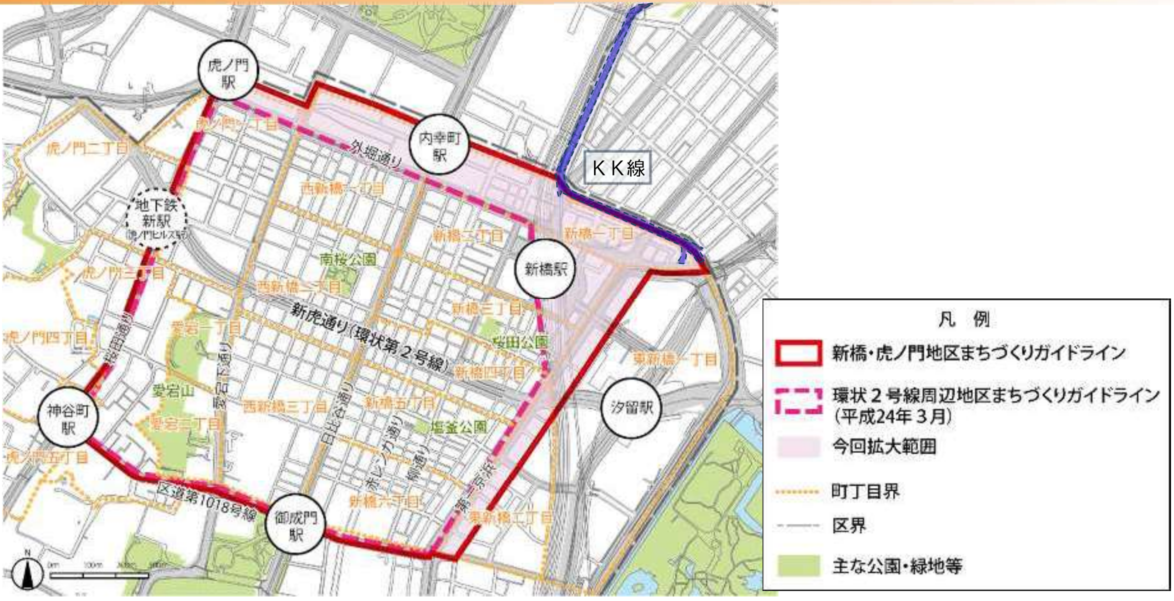
一方で、各路線の乗り換えはバリアフリー動線が確保されておらず、乗り換えがしにくくなっています。市街地改造事業で整備された駅前広場も、東西で役割分担をしているものの、東西の連絡が十分ではありません。また、当事業で整備され、築後５０年を経過した駅前建物の老朽化に伴う建て替えが課題となっています。

２　新橋・虎ノ門ガイドライン

新橋・虎ノ門地区まちづくりガイドライン（以下､「ガイドライン」といいます。）では、地域の資源や個性をいかしたまちづくりを進めていくため、本地区内を６つのエリアに区分しています。６つのエリアのうち、新橋駅周辺エリアでは、まちの特徴から３つの重点方策を示しています。また、本地区のエリア内の「都市機能が集積する拠点」である新橋駅周辺を「新橋拠点」と位置づけ重点方策を示すことにより、交通結節機能の更なる強化を図るとともに、利便性の高さをいかしてまちの中心となる拠点の形成を目指しています。

さらに、本地区のまちの将来像の実現に向けて、地区全体に対してまちづくりの方を８つの分野別に示しています。

8
ガイドラインの対象区域



（１）エリア別方針

新橋駅周辺エリア

新橋駅西口広場（SL広場）

にぎわいある繁華街

桜田公園での防災訓練

国内外から人びとが集う、界わい性のあるにぎわいの継承

【まちづくりにおいて大切にしたい視点】

- “新橋”らしさを醸し出す路地空間の界わい性や駅周辺のにぎわいの連続性を継承します。
- 国内外と都心部をつなぐ交通結節拠点である新橋駅周辺という立地の優位性と小・中規模オフィスの集積をいかしてイノベーションを推進するスタートアップを呼び込み、イノベーションの拠点として地域の活力創生を目指します。

重点方策 1　”新橋”らしいにぎわい空間の形成とイノベーション推進を支える場づくり

- 新橋らしい路地空間のにぎわいや街並みを継承した建築物の更新を促進
- 各街区の外縁部と内部の路地空間との役割分担を図った歩行者中心の空間づくり
- 小・中規模の事務所の集積をいかし、新橋西エリアとともにイノベーション推進を支える場づくりを推進
- 人の目に映る緑を連続的に創出するとともに、敷地を立体的に活用した緑化を推進するなど、うるおいが感じられる憩いの空間を形成
- ヒートアイランド対策としてのクールスポット整備を推進
- 地域と行政が連携した防犯パトロールなどにより、客引き行為や違法看板対策などを促進

重点方策 2　エリアが一体となった防災活動の推進

- 行政が行う防災対策と併せて、地域の事業所などが連携した帰宅困難者対策を推進し、新橋駅周辺の防災対応力を強化
- 新橋駅周辺の防災拠点への避難路を確保するため、倒壊危険性の高い老朽建築物の耐震化対策を促進

重点方策 3 国内外や周辺エリアとのつながりを意識した玄関口の形成

- 隣接する各エリアの地域特性と新橋らしさを融合させた駅前の顔づくりを推進
  - ✓ 汐留への玄関口：新橋のヒューマンスケールな街並みと汐留の大きなスケールが連続し共存した駅前広場整備
  - ✓ 銀座への玄関口：銀座の気品ある商業の街並みと連続したにぎわい空間の形成、交差点の顔づくり
  - ✓ 日比谷への玄関口：丸の内仲通りからつながるにぎわいの連続による回遊性向上
  - ✓ 新虎通りとのつながり：新橋駅西口広場（SL広場）から新虎通りへ楽しく歩ける歩行者空間の確保
- 国内外や都心へのアクセスの結節点として、回遊や観光の起点となるよう歩行者ネットワークやたまり空間、案内機能などを充実

（２）拠点別方針

新橋拠点

国内外との交流・連携の更なる促進に向けた交通結節機能の強化

重点方策 1 広域交通ネットワークのアクセス性の高さをいかした国際競争力強化に資する都市機能の導入

新橋駅は、羽田空港と成田国際空港に直結するなど、本地区のみならず都心と国内外の接点となる駅です。このため、都心と国内外のアクセスの拠点となる交通結節拠点としての利便性を向上させます。

都内屈指のターミナル駅である新橋駅の機能強化を図るとともに、周辺の開発事業等においては国内外からのビジネスマンや旅行者を支える案内機能及び商業機能の充実、国際水準の業務・宿泊機能の導入を図り、新橋らしい国際競争力強化に資する拠点整備を進めます。

重点方策 2 交通機関の乗換・乗継の利便性向上による交通結節機能の強化

新橋駅には、鉄道、バス、タクシー、自転車などが乗り入れ、さらにBRTが計画されるなど多様な交通手段の乗り入れが想定されていますが、各交通機関が重層的に分散して存在し、動線が交錯しています。利用者が分かりやすくバリアフリーにアクセスできるよう、周辺のまちづくりと連携し、駅前広場空間や乗換・乗継動線を再編し、東口と西口とで適切に役割分担を図りながら、一体となって交通結節拠点としての機能強化を図ります。あわせて、新橋駅周辺は歩行者が非常に多いことから、駅周辺の滞留空間を充実させるため公共施設と民有地が一体となってパブリックスペースを創出するとともに、駐車施設の適正配置を検討します。

また、まちの玄関口となる駅や駅前広場においては、観光や交通に関する案内機能の充実を図るとともに、ユニバーサルデザインに配慮した案内サインを整備し、国内外から訪れる来街者がまちを楽しく回遊できる仕掛けを誘導します。

重点方策 3 駅の東西、周辺地域とつながる歩行者ネットワークの強化による回遊性向上

駅とまちが一体的につながるよう、駅を中心として東西のまちをつなぐ歩行者ネットワークを重層的に整備します。さらに、銀座や汐留、日比谷、新虎通り沿道などの周辺地域とのつながりを意識して歩行者の滞留空間などを配置することで、駅東西及び周辺地域とのアクセス性や回遊性を向上させるとともに、まちの玄関口をゆとりある魅力的な空間として整備します。

また、新橋駅は一日の乗降客数が 90 万人を超えるターミナル駅であり、災害時には非常に多くの駅前滞留者や帰宅困難者が集中すると想定されることから、発災時にも滞留者と車両の通行が交錯せず有効に活用できる退避経路や広場空間を整備します。

（３）分野別方針

方針４　緑と緑をつないだ、うるおいのある緑豊かな空間の創出【緑・水】

取組方針１　緑のネットワークの形成、拡充

- 新虎通りをはじめとして歩道が設置されている道路では、街路樹の整備、維持管理を推進するとともに、沿道において道路と一体となった厚みと広がりのある緑化を行うことで、道路をいかした緑の軸を形成します。
- 愛宕山の斜面緑地を保全するとともに、その周辺において緑空間を拡充することで、芝公園から日比谷公園へ連なる地形をいかした緑の軸を形成します。

○緑のネットワーク

本地区では、道路ネットワークの整備と併せて、下図のとおり緑のネットワーク化を図っていきます。